**北　玲児 （きた・れいじ）**

**１、プロフィール**

詩人。本名川村権一。昭和８年、詩誌第二次「北」、詩誌「府」に同人として参加し、詩を発表。「東奥日報」、「弘前新聞」にも詩を掲載、新進詩人として注目される。

＜生没＞

1915（大正４）年２月24日 ～ 1935（昭和10）年１月２日

＜代表作＞

詩「其の日」（第二次「北」３号）

詩「早春」（「府」４号）

＜青森との関わり＞

東津軽郡滝内村に生まれる。主に県内の詩誌、新聞に詩を発表、詩人として活動した。

**２、作家解説**

詩人。本名川村権一。大正４年東津軽郡滝内村に生まれる。川部小学校に入学。３年の時、弘前市立第二大成小学校に転校、昭和元年卒業する。昭和２年、県立弘前中学校に入学する。昭和５年、４年生の時に病気で休学し、昭和８年卒業する。在学中に詩作を始め、「校友会報」33号（昭和６年）・同34号（昭和７年）・35号（昭和７年）に詩を発表。７年頃より、「臘人形」・「暁星」らに投稿、翌８年１月「東奥日報」新年文芸懸賞詩１等入選、同月三上斎太郎・山田諒三郎・奈良武智夫・船水清らによって創刊された詩誌第二次「北」に同人として参加し、詩を発表する。第二次「北」は、４月に３号を出して、終刊となる。新進の詩人として評価注目されるようになる。「北」の延長として、12月一戸洋一・植木曜介・船水清によって創刊された詩誌「府」に同人として参加し、詩を発表する。「東奥日報」・「弘前新聞」にも詩を発表、９年７月「東奥日報」『東奥文壇』の「詩特輯」に選ばれ、詩が掲載された。

翌10年１月２日、弘前市立弘前病院で紫斑病のために、19歳で死去した。詩人としての活動期間は短く、独自の詩才を十分に開花させることができなかった。その詩は、死への想念を通奏低音とした抒情を、超現実主義的詩法により表現している。

１ヵ月後、「弘前新聞」は「詩人北玲児君の追悼文」を特集し、一戸謙三・奈良武智夫・船水清らの追悼文が掲載された。

**３、資料紹介**

〇「北」（第二次）３号

雑誌

1933（昭和８）年４月

265mm×195mm

詩誌。昭和８年４月１日発行。発行所（青森県詩人連盟　北発行所）。第二次「北」の終刊号。編集は中山寛一・三上斎太郎・山田諒三郎・船水清。代表詩の「其の日」が掲載されている。